

第 31 回西アジア発掘調査報告会の開催にあたって

日本西アジア考古学会会長 三宅 裕

今回で第 31 回を迎えることになりました西アジア発掘調査報告会は、帝京大学文化財研究所のご協力により、石和温泉にほど近い山梨県笛吹市にある同研究所を会場として開催される運びとなりました。まだ記憶に新しいところですが、帝京大学文化財研究所においては、2022 年 7 月にも日本西アジア考古学会の総会・大会を開催させていただきました。当日は参議院議員選挙の投票日と重なり、安倍元首相銃撃のニュースが飛び込んでくるなど、体感以上にたいへん暑い夏の日であったことが思い起されます。総大会の会場をお引き受けいただいてからまだあまり時間が経っていないにもかかわらず、本学会の基幹事業の一つである発掘調査報告会の会場を再びご提供いただくこととなり、帝京大学文化財研究所の皆様には心より感謝申し上げます。

皆様もよくご承知のように、これまで西アジア発掘調査報告会は古代オリエント博物館(サンシャインシティ文化会館)をはじめとして、国士舘大学イラク古代文化研究所など、東京近郊で開催することが恒例となっておりました。2022 年 3 月には、新たな試みとして広島県教育事業団のご協力の下、広島市を会場として開催いたしましたが、その際はまだ新型コロナウイルスの影響を完全には払拭することができず、たいへん残念なことではありましたが、オンラインを中心とする形式をとらざるを得ませんでした。したがって、対面形式を主体とするものとしては、今回が関東圏以外で開催されるはじめての発掘調査報告会ということになります。豊かな自然に囲まれ、うららかな春の陽気の下、これまでとは一味も二味も違った発掘調査報告会になるのではないかと期待しております。

ここ数年の新型コロナウイルスによるパンデミックは、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。厳しい行動制限が課されるなど、たいへん不自由な生活を強いられることになりましたが、その一方でオンラインによるコミュニケーション技術の爆発的とも言える普及をもたらすことにもなりました。私自身、コロナ禍以前は自分がオンラインで授業をおこなうことなど想像すらできないことでしたが、今や当たり前のことのようにおこなっています。こうした経験を通じて、それまで当たり前だった対面によるコミュニケーションがいかに大切で貴重なものであったのか改めて認識するとともに、自宅に居ながらにして会議や講演会などに参加できる便利さ・素晴らしさを実感された方も多いのではないのでしょうか。今回の発掘調査報告会では、山梨の会場における対面での報告を基調としつつ、それをオンラインでも視聴できる態勢

を整えていただきました。これにより、会場に足を運ぶことができない方々にも情報の発信が可能となり、発掘調査の成果をより多くの方々にお届けできることを喜んでおります。現状では、こうした対面とオンラインの併用が最良の形式であると言え、今後も様々な企画においてこうした形式での開催を進め、定着させていくことができると考えております。

2024年は元日に能登半島で大きな地震があり、大きな不安の中でのスタートとなってしまいました。被災された方々には、この場をお借りして、心よりお見舞い申し上げます。6年ほど前に金沢市を会場として本学会の総大会が開催された際、前乗りして能登半島の遺跡を巡ったことがあるのですが、その際に珠洲市も訪れ、瓦屋根の伝統的な家屋が立ち並ぶ町並みに魅了されたことを覚えています。震災後の映像には大きな衝撃を受け、何も言葉が出てきませんでした。私たちがフィールドとしている西アジアでも、昨年2月にはトルコを震源とする大地震があり、イスラエル国内への襲撃事件に端を発するガザ地区への侵攻など、痛ましい状況が続いています。自然災害については不可避的な面があり、防災や減災に努めていくことしかできないかと思いますが、ガザ地区での状況は明らかな人災であり、私たちが考え方や行動を変えることで、抑止や終局させることができるものです。西アジアの地をフィールドとし、現地の人々とも長く交流してきた一人として、一日も早い戦闘の終結と紛争の解決を願ってやみません。
